

## わが町は会社から遠いが住みやすい

折口 信也 \*

Origuchi Shinya

今暮らしている町について思い起こしてみた。

## 1. 退寮と引越し

中学を卒業後してから会社の寮を30歳で出るまで寮生活を送った。学生寮は学内に、会社の寮は事務所の近くにあり、通学、通勤とは無縁の生活を送っていた。30歳は独身寮の退寮期限で退寮が迫った時、家探しを始めた。職場の同僚へ新聞チラシを依頼し、そのチラシを持って毎週休みのたびに建売現地を訪問した。

会社は都心（江東区豊洲）にあった。豊洲を中心に横浜、東京、埼玉、茨城、千葉と1都4県をぐるっと廻った。将来引越さなくてもよいように永住できる家を目指した。

生涯住むのに適した広さの物件は通勤が便利だと遠く、なかなか希望に合う物件を見つけ出すこ

とができずに半年が過ぎた。

結局、通勤時間で妥協し、ある程度の広さと自然環境を選び、昭和58年に利根町（当時、茨城の新興住宅地で、約1600世帯あり、都心まで直距離40Km）に移った。

## 2. 利根町はどこ

利根町は、会社を中心に八王子とは180°反対側で、茨城県の最南端にあり、龍ヶ崎市、取手市、利根川をはさんで千葉県我孫子市、印西市に接している。

このあたりは平坦な地形に、水田が広がり茨城でも有数の穀倉地帯となっている。入居して、まもなく、この新興住宅地を抱えた利根町は、昭和60年に、人口20,000人を超え、人口増加率県内第1位を記録している。人口増加とともに財政も



5階建ての利根町役場

\* 西日本事業部長

潤い、利根町役場（人口が3万人を超えていないため市制が適用されず市役所ではなく、町役場）は平成元年には新庁舎が完成し、古い木造の役場からモダンな5階建ての役場へと変わっている。

### 3. 通勤

この町は筑波学園都市、成田空港に近く、自然が豊かで環境抜群だが、通勤は布佐駅（JR 成田線）から豊洲駅（都営地下鉄）まで2時間と遠い。入居当時、成田線（常磐線・我孫子～成田）の電車は単線で、1時間に1本で、複線化の計画があり、用地確保が完了していたが、入居から28年経った現在もまだ単線である。現在、便数は倍増し、30分に1本と増便となっている。しかし、通勤はいまだ2時間と入居時と殆ど変わらない。

### 4. 利根町の史跡と文化

この町は小さな町だが、歴史が古く、多くの史跡・文化財がある。

縄文時代の貝塚（立木貝塚、花輪台貝塚、布川貝塚）、史跡（鎌倉街道、布川城跡、柳田國男記念公苑）、神社仏閣（徳満寺、来見寺、泉光寺、根本寺、布川不動堂、琴平神社、蛟もう神社、赤門）、仏像（木造地藏菩薩立像、木造不動明王坐像、木造大日如来坐像、木造仁王像、木造観世音菩薩立像、木造両界大日如来坐像、木造阿弥陀如来坐像）、板碑（貞和銘板碑：じょうわめいいたび、永仁銘板碑：えいにんめいいたび）、金銅板両界曼荼羅（こんどうばんりょうかいまんだら）など。・・・・・・・・紙面の関係で詳細は利根町役場ホームページを参照

### 5. 祭り

祭りは1月にどんど焼き、7月に刀祭（たちまつり）、3年に1度、7月末の金・土・日曜日の3日間布川神社臨時大祭、8月に利根町民納涼花火大会が開催される。

夏の花火大会は目の前の利根川で行なわれるので、家から気軽に見に行くことができる。当日は屋台も出て、県外から多くの見物客訪れ、にぎわっている。

大晦日には布川城跡にある徳満寺で除夜の鐘を一般参賀で撞くことができ、境内では豚汁、甘酒の振舞いもあり、町民参加のアットホームな行事となっている。毎年、今年で28年間お参りしており、ご利益も大きなものとなっている。



布川城跡にある徳満寺



徳満寺の釣鐘堂

## 6. 暮らし

我が家を含む新興住宅地は利根川のすぐ側で、水田に囲まれ、小川、用水路があり、川風や水田を通る風で、夏は日中でも影にいるか、日が落ちるとクーラーを使う必要がないくらい涼しく過ごせる。ここでは、口コミで廻りの農家から米の直接購入が広まり、家庭ごとにそれぞれの購入農家が決まり、自然とすみわけができ、地産地消のよい関係となっている。

何年か前に記録的な冷夏による不作から世間で米不足騒動（平成の米騒動）が起きたときも、我が家では通常通り米を手に入れることができました。近くに大きなスーパーが何件もあり、スーパーには、銚子から鮮魚が並び、地元の取れ立て野菜が並んで、物価も安く、暮らしやすい。利根川の長い堤防は格好のジョギング、ウォーキング、散歩のコースとなっており、朝、夕、近隣の人でにぎわっている。また、堤防下の道路は長い直線となっており、車の通りも少なく、近くの取手競輪の選手がロードトレーニングしているのを度々見かける。

新興住宅地ができたときに植えた堤防脇のプレイロットの桜は今では大木となって、春には桜の花で一杯になる。わざわざ出かけなくても家の直ぐ側で花見ができ、花見の時期になると近所の方々があり合せの物を持ち寄り、気軽に花見を楽しんでいる風景を目にする。

## 7. 子育て

都内までの通学も何とか可能で、2人の子供は小学校から大学まで都内に通っている。家内が家から常磐線・取手駅まで15分の送迎を行うことにより通学時間は30分短縮され、1時間半となる。今年、長男は就職したが、次男が大学へ入学したため、家内の送り迎えはまだ続いている。

長男、次男が小学生の時、都内からそれぞれに友達遊びに来たことがあるが、彼らがもっとも興味を抱いたのは、野球でもなく、サッカーでもなく、ザリガニ採りだった。竹竿に糸をつけ、すゝめをつけた仕掛けで、簡単にザリガニが釣れる。

デパートの水槽でしか見たことがない友達は、夢中になりザリガニが釣りを楽しんだ、田んぼに



利根川の堤防（散歩、ジョギングコース）



プレイロットの満開の桜

落ちて泥んこになった子もいたがそれでもやめずに釣り続けていた。

我が家の近所に越してきた方は殆どが都内の会社へ通勤している。子供のぜんそくがひどく環境の良いところを探して移ってきたという人もいた。移ってしばらくしたら、ぜんそくが直ったという話を聞いた。

## 8. わが町を振り返って

町並みは変わらないが、子供も街路樹も大きくなり、新興住宅地が今はすっかり町に馴染んで住みやすくなった。定年を迎えた人は農家から畑を借り、家庭菜園を楽しんでいる方が増えていると聞いている。向かいの方は数年前から家庭菜園を始めた。当初は農家の人に教わりながら野菜を作っており、頂いた野菜は何か今一つ出来がよくなかったが、3年目にはスーパーで売っているものと大差がないぐらいの出来となっている。わが町は市町村統合でも生き残り、今では珍しい“北相馬郡利根町”と町の名前からしてまだ田舎である。堤防を越えると、釣り雑誌に出ている釣りポ

イントのメッカであり、週末になると、河原に都内ナンバーの車が並び、多くの人が泊りがけで釣りをしている。

堤防の上は散歩、ジョギング、河原は釣りと、のどかな風景がまだ残っている

長年住んで、わが町を振り返ると、通勤通学は少し時間が掛かるが、平日は都会の「快適さ」と、週末は田舎の「自然、食、環境」の良さの両方を楽しめ、住みやすいと感じている。



西日本事業部長  
折口 信也  
TEL. 0791-23-3720  
FAX. 0791-24-2748